

小論文 松本大学 2025年度総合型選抜 総合経営学部 出題の意図

能登半島地震の被災地において、生活や産業の再建が進まず人口が流出しているという現状を踏まえ、大規模な災害が起きた後、いかにして生活や産業をすみやかに復旧・復興させるべきか、その具体的な方策を問うた。

出題の狙いは以下の三点である。

- ① 能登半島地震からの復旧・復興という現実に対し、高い問題意識をもち主体的に考察できているか。
- ② 大規模災害直後という特殊な状況を理解した上で、生活や産業を再建するための有効な対策を論理的に構築できているか。
- ③ 自身で考えた対策を、根拠をもって説得力豊かに述べる論述力があるか。

地域社会を多角的に捉える素養や、社会を構成する諸組織に対する理解力、複雑な情報を整理し自分の意見を明確に発信する力を養うことが、本学部での学びの重要なポイントとなる。

小論文 松本大学 2025年総合型選抜 健康栄養学科 出題の意図

体温、血圧、心拍、代謝、ホルモン分泌、免疫機能など、多くの生体機能に認められる約24時間周期の「サーカディアンリズム」を題材とした。「サーカディアンリズム」「規則正しい食事」「睡眠」の3つをキーワードに情報を収集し、自身の学びと将来に向けて実践すべきことを論じるテーマで出題した。

本設問の第一の狙いは、受験生が健康に対して高い関心を持ち、自身の課題として主体的に捉えられているか、また本学での学びを通じて将来果たすべき役割をどのように考えているかを問うことにある。加えて、小論文全体を通じて設問の意図を的確に把握し、必要な情報を収集・整理する能力、自らの考えを論理的に展開する構成力、そしてそれらを伝える表現力を評価の主眼としている。

小論文 松本大学 2025年度総合型選抜 スポーツ健康学科 出題の意図

課題文を読み部活動の今後のあるべき方向について考えを述べるというテーマを課した。部活動については昨今報道等でもとりあげられているように、少子化が進展する中、これまでと同様に運営することは困難になってきており、学校や地域によっては部活動の存続が厳しい状況におかれている。また、学校の働き方改革が進む中、その専門性や意思に関わらず教師が顧問を務める従前の指導体制を継続することも、より一層厳しくなっている。そのような状況を念頭におき、キーワードである「地域移行」「ウェルビーイング」「プレイヤーズファースト」「変革・変化」を適切に用いて、学校と地域との連携協働により、生徒や保護者の負担に十分配慮しつつ、活動環境を整備するなど、今後進むべき具体的な方向性を示せるかを評価する狙いがある。

小論文 松本大学 2025 年度総合型選抜 教育学部 出題の意図

小中学生によるスマホ・キッズケータイの所有率を示す資料2点を材料に、①資料からどのようなことが読み取れるか、②このような状況が教育に与える影響にはどのようなものがあり、現場の教員としてはどのような対応をしていくべきかを述べるという課題を課した。教育の現代的課題に対応しうる教育者としての資質や、子どもをとりまく環境を理解したうえで、子どもにとって何がよいかを多角的に考察する力があるかを見ることを狙いとしている。また、資料を正確に読み取り的確にまとめる力に加え、指定されたキーワードを用いて自らの考えを論理的に構築・説明する力の評価も狙いとしている。

小論文 松本大学 2025年度総合型選抜 アスリートI期 出題の意図

パラリンピックに参加した選手の感想をもとに、パラリンピックの意義について自分自身の考えを述べるという課題を課した。資料から読み取れる個々の感想をもとにパラリンピックの意義を多角的に考察し、それを自身の意見にどう反映させているかを見ることを狙いとしている。また、多様性を認め、誰もが個性や能力を発揮し活躍できる公正な機会を与えるという本大会の理念に対し、どのような価値を見出しているのかを問うている。これを通じて、運動・スポーツの専門知識を活かして人々の健康づくりに貢献することを目指す者としての資質や、誰もが個性や能力を発揮し活躍できる社会についての考え、そして本学で学びたいという志望者の意欲の強さを評価することを意図している。

小論文 松本大学 2025年総合型選抜 アスリートⅡ期 出題の意図

「体育会学生は就職活動に有利か」というテーマに対し、自身の考えを論述させる出題とした。大学での学びと将来の就職という、受験生自身に関わる二つの大きなテーマを関連付けて考察させることで、日頃から自己と向き合い将来について真剣に考えているか、また本学での学びをどう捉えているかを問うことを狙いとしている。解答にあたっては、大学での学びが将来どのような意義を持つかについて、自分自身の言葉で明確に表現することを求めている。運動・スポーツの専門知識を修得し、アスリートとして活動した経験を、将来の社会の中でどのように生かし、役割を果たそうとしているかという自身の見解を、的確に表現する能力を評価する出題としている。

小論文 松本大学 2025 年度総合型選抜 アスリートⅢ期 出題の意図

本問では、アスリートとしての活動と学業との両立が、その後の人生にどのような効果を及ぼすかについて、自身の考えを述べる課題を課した。スポーツと学業を両立させることには多大なメリットがある一方、課題文が指摘するように、学生アスリートは競技偏重に陥りやすく、両立に困難を抱えるケースも少なくないのが実情である。本学への入学を志すにあたり、志望者が「アスリートとしての自己」と「学業」との関係をどのように捉えているかを確認するとともに、学びに対する真摯な姿勢や意欲を評価することを狙いとしている。なお、解答にあたっては、両立がもたらす効果を一般論として記述するだけでなく、自身の経験に基づいた明確な根拠を示し、説得力をもって論理的に自身の考えを述べる力を求めている。

小論文 松本大学 2025 年度 総合経営学部 外国人選抜前期 出題の意図

地域文化の保存と次世代への継承の重要性について論じ、そのための具体的な取り組みについて意見を述べるという課題を出した。地域文化の保存と次世代への継承がなぜ大切となるのか、掘り下げて多角的な視点から考えることのできる思考力を見るとともに、具体的な取り組みについて意見を述べさせることによって、大学以降の学びで必要となる課題解決力を見ることに狙いとした。①地域の文化を継承し、発展させるためには、地域の伝統文化の現在の状況に至る経緯や実態を把握する必要があること、②地域活性化には地域の文化が重要な役割を果たすこと、③地域の文化を継承し発展させるために、地域住民や民間企業との連携を図りながら、地域の魅力を創出することが求められることなどを念頭におき、説得力のある論を展開する必要がある。

小論文 松本大学 2025 年度編・転入学選抜 I 期 総合経営学部 出題の意図

地方都市の中心市街地から百貨店や大型商業施設が撤退することによって、どのような地域課題が生じると考えられるか、自身の考えを述べる課題を課した。

出題のねらいは、商業施設の撤退が地域に与える影響を多角的に分析・論述させることで、地域社会を構成する組織体（行政、企業、市民等）の相互関係への理解や、社会を総合的に捉える素養を問うことにある。特に、新聞等で頻繁に議論される社会現象に対し、単なる情報の受け手としてではなく、当事者意識を持って深く関心を寄せているか、その見識を確認することを主眼としている。

本学部は「地域経営（地域マネジメント）」を学びの柱としており、将来、地域社会のリーダーや担い手となる者には、複雑に絡み合う課題を多面的な視点から整理し、解決策を的確かつ説得力をもって提言できる能力が求められる。本設問を通じ、居住する地域の未来を「自らの課題」として構想できる資質を評価したい。

小論文 松本大学 2025 年度編・転入学選抜Ⅱ期 総合経営学部 出題の意図

クマ被害の取り組みについて、自分自身の考えを 1000 字以内で述べる課題を出題した。昨今、クマ被害は深刻な社会問題として身近な話題となっている。こうした事象に対し、単に表面的な感想を述べるのではなく、確かな問題意識を持って多角的に考察できているかを確認することが第一の狙いである。具体的には、自然保護や野生動物との共存が社会的使命となった背景や、過疎化・里山の管理不足といったクマの増加の構造的要因を正しく理解できているか、またクマ被害の取り組みの是非について自分自身の考えを説得力のある論理構成で展開できているかを評価する意図がある。

小論文 松本大学 2025 年度編・転入学選抜 スポーツ健康学科 出題の意図

本設問は、青少年のスポーツ観戦率が低下している現状に対し、その要因を深く分析し、具体的な解決策を論理的に提案できる能力を問うものである。まず、課題文が示す「みる」スポーツの振興が、将来的に「する」「ささえる」側への参画を促し、スポーツ文化の裾野を広げていくという構想を正しく理解しているかを確認したい。その上で、単なる集客アイデアに留まらず、スポーツが持つ「一体感や地域への愛着をもたらす力」をどう活用すべきか、独自の視点を含めた具体的な施策が示されているかを評価する狙いがある。例えば、プロスポーツチームと地域社会・企業との連携などを通じ、地域とスポーツが共に発展していく姿を展望できているか。将来、スポーツを通じて社会に貢献しようとする者として、人々がスポーツに関わってゆくきっかけやその過程を深く考察できる能力を確認する意図で出題した。